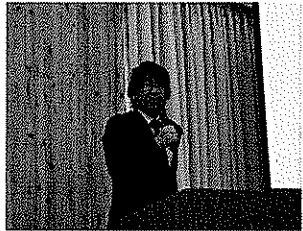





水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成 20 年 3 月 23 日に開催した「第 3 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（県央・湘南地域フォーラム）」の内容は次のとおりでした。

名 称	第 3 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（県央・湘南地域フォーラム）	
構成員	真覚邦彦、吉村妙子、柳川三郎	
開催日時	平成 20 年 3 月 23 日（日） 13:00～15:00	
開催場所	秦野市表丹沢野外活動センター 活動室	
出席者	金澤史男（※1）、新堀豊彦、沼尾波子（※2）、天内康夫、片山幸男、高橋二三代、長谷川朝恵、牧島信一、増田清美 ※1 主催者あいさつ ※2 市民事業支援制度説明及びコーディネーター	
参加者	110名	
報告者		
内 容	<p>1. 主催者あいさつ 金澤座長 ○このフォーラムには3つ目的がある。1つ目は県民の皆さんに水源環境税のことを知ってもらう機会とすること、2つ目は、直接県民の皆様の見解をうかがう機会とすること、3つ目は様々な活動を始めた県民会議の行動を知っていただく機会とすることである。 ○県民会議は、市民の方々の活動を支援する仕組みを1年間議論した。その成果の一端を今日示したい。</p>  <p>2. 地元市長あいさつ（代理） 中村秦野市副市長 ○本市は秦野1世紀の森づくり構想によりボランティアによる里地里山の整備、さらに市の事業として整備を加え50年かけて再生し、さらに50年かけて育て上げることを目指している。 ○4月からの水源環境保全事業の推進にあたり、県から交付金を受けふるさと里山整備事業、里山ふれあいの森づくり事業等に取り組むとともに市民ボランティア団体の方々への支援にもこの財源を活用している。 ○平成22年に開催する全国植樹祭の式典が県立秦野戸川公園に決定し、市民総ぐるみで成功に向けて取り組んでいきたい。</p>  <p>3. 水源環境保全・再生の取組とは 星崎水源環境保全担当課長 ○5か年の計画として年間38億円予算来年度は県全体では約42億円の財源を活用して12の事業を推進していく。 秦野市では、市と市民団体が協働して里山の保全に従前から精力的に取り組まれておられ、素晴らしい成果を挙げられている。 ○県民会議として「市民事業等への支援制度」について検討していただき、その報告書をもとにこの4月から制度を開始する予定である。</p>  <p>4. 市民事業支援制度の説明 沼尾市民事業等審査専門委員会委員長 ○水源環境保全・再生施策の中に県民参加が柱の一つにあり、具体的に市民が実施する事業に対する財政支援の仕組みを県民会議の中の市民事業等審査専門委員会で検討してきた。 ○制度の検討にあたっては、県内外の事例を調べるとともに実際に活動を実践している団体の方から話を伺ってきた。 ○今後、単なる補助金に終わらせず、様々な形で活動をつなげ大きく育てていくためにも多くの方々にこの仕組みを活用していただきたい。</p> 	

内 容 (続き)	5. 事例報告、フロア討論		
	コーディネーター	日本大学経済学部准教授	沼 尾 波 子
	パネリスト	秦野市環境産業部森林づくり課長	大 津 徹
	〃	まほろば里山林を育む会代表	椎 野 恭 治
	〃	金目川水系流域ネットワーク	柳 川 三 郎
〃	水源環境保全・再生かながわ県民会議委員	真 覚 邦 彦	
<p>真覚委員を除く各パネリストからの自己紹介を含めた事例報告に引き続き、フロア討論を行った。</p> <p>(大津氏) 秦野市では、山林所有者と行政とボランティアの3者で協定を結んでいるところが特徴。行政がコーディネーターとして間に入ることで安心して活動ができるようだ。</p> <p>(椎野氏) 私達の活動を地域の方々に知っていただき、理解していただくことが重要。山で活動をしていると、自然の恵みなど山が私たちに恩返しをしてくれることを実感している。</p> <p>(柳川氏) 金目川水系ネットワークでは生産者・消費者なりすべての人が双方向で行き交うような情報誌を発行して、より大勢の人に見ていただいている。東海大学と地元の人たちで自主的に運営している。</p> <p>(真覚氏) 県民会議として、水源地や河川などで実際に行われている事業をモニターし、その内容を県民の皆さんに広くお知らせする活動始める。今後、いろいろな手段、方法を捉えて県民の立場で広く皆さんにご案内していきたい。その他、会場からの質問・意見等も踏まえ、討論を行った。(意見等については別紙。)</p>			



第3回県民フォーラム準備委員の感想

真覚邦彦	フォーラムに参加・傍聴なされた方々と主催者側との間に、この事業計画についての情報・知識の量のギャップが、まだまだ大きいことを感じました。県内に理解・協力の輪を拡げるには、一般の方々のご質問にひとつずつ、解りやすい回答をしなければならぬと痛感しました。
吉村妙子	水源環境保全・再生に関心を寄せる方々に、新たな支援事業を紹介する、よい機会だったと思います。一方で、水源環境税、市民事業支援制度、活動事例など幅広く伝え、しかも深く議論するには時間が必要だと感じました。広報全体に通じることですが、テーマやターゲットをより明確にすることで、議論も深まるのではないのでしょうか。
柳川三郎	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のフォーラムは秦野市里山まつりと同時開催として実施しましたが、予定したよりもまつりが中心の県民が多く学んでいかそうとする人をもっと増加させるべきと考えました。 ・水源環境保全・再生事業及び水源税の用途について、県の説明はよく理解ができました。今後も継続的に県民に知らしてほしい。 ・市民事業支援制度の説明について、私は適切な説明と判断いたしました。アンケートでは積極的に活用したいとの意見がないのが残念です。 ・パネラー・フロアの発表・討議は秦野市の重要な水源である地下水を守るために多くの市民が活動している実態や今後の取り組み目標及び課題を広めることができ有意義でした。特に地下水を維持するために森がいかに重要であることが伝わりました。